

自殺した少女の訴えを 隠し続けた教育行政とチェックできなかった市議会を検証します

昨年9月9日に教室で自殺をはかり今年1月6日に亡くなられた児童は、つらい気持ち・訴えを遺書に託しました。しかし、前教育長と事務局は1年間いじめを認めず、虚偽の報告をしていました。マスコミ報道が全国に広がる中、10月2日に行われた記者会見で、教育長は「いじめの事実を把握できないので、いじめとは認められない」と述べ、3日後に一転いじめを認めました。市民は、教育長と校長らの不可解な対応に疑問を抱いています。日本共産党は、市民の疑問にこたえるため、この臨時市議会報告を発行することにしました。一方、教育長が虚偽報告、事実隠しをしたとはいえ、市議会・教育委員会がチェック機能を果たせず、児童の訴えに応えられなかったことは事実です。自殺を防げなかった滝川市の教育行政・いじめ対策、真相解明における日本共産党の活動も不十分だったことを市民の皆様にお詫び申し上げます。

問題点 1 前教育長・・・1年間いじめと認めず、遺書の内容を隠した(マスコミ、全国の批判、大臣発言でやっと認める)

・昨年10月にほぼ完全な遺書の内容を入手しながら、遺書を手紙、自殺を事故と表現。11月の公式報告では、「手紙には、友達の好き嫌いが書かれていた」「先生によく相談する子だった」「いじめの事実は把握できない」「修学旅行の部屋分けでトラブルがあったが解決していた」などと述べました。今回の報道や電話やメール、文科大臣の発言がなければ、はたして認めていたか疑問です。なお前教育長は辞職時「市議会と教育委員会への報告が不適切だった」と謝罪しました。

原因1・・・国への報告基準 (①弱いものに一方的②攻撃を継続的③相手が深刻な苦痛)を優先し、「いじめか否かは、子どもの認識で」(95年文部省通知)を無視しました。

・前教育長は「子どもがいじめと感じた場合、敢然と指導する。ただ、最終的判断は、3要素(上記①②③)を加味して実態分析する。」(9月議会)と述べていました

原因2・・・マスコミが報道しても、大きな反響は予測していなかった。事件が風化するのを待っていた。

・前教育長は「いずれマスコミで公表されると思っていた。隠す気は毛頭なかった」(10月)と述べました。しかし、公表されるまで隠し続けたのは事実です。

原因3・・・教育長の虚偽の報告で市議会・教育委員会のチェック機能がはたらかなかった。

・市議会では、昨年9月、11月、12月、今年2月、3月、6月、8月、9月に議員が質疑しましたが、すべてウソと事実隠しの答弁がされチェック機能を妨害されました。

問題点 2 市長・・・遺書を読み、教育長から相談受けたのに、そのまま記者会見させた責任は重大

・市長は「1日に遺書を読んだが、2日、5日の記者発表前、いじめの定義をしっかりと考えて教育委員会で判断を下してくださいということ、明確に申し上げた。市長がこれはいじめだと言ってしまえば、教育委員会の決定に大きな影響を与えるのは明らかです。2日の記者会見前に、いじめと認めない判断について意見は言わなかった。今後も教育委員会に意見は言う考えはない」「教育委員会は独立行政機関なので、市長の責任は重いが、最終責任は市長には無い」と述べています。(10月23日)

問題点 3 道教委・・・昨年10月に遺書の概要、今年6月に全文入手しながら、市教委に適切な指導せず

・道教育長は、遺書を紛失した職員に責任をかぶせて幕引きをはかろうとしています。出先の空知教育局は昨年9月9日当日から指導・助言の立場から情報を得ていたのですから、事実を知りながら前市教育長と同じ考えだったと言われても仕方ないのではないのでしょうか。道教委の指導の問題点の解明は今後、道議会で行われます。

問題点 4 自民・公明政治(文部科学省)・・・いじめゼロ報告・交付税削減など歪んだ教育行政続ける

・文科省に報告された小中高校生の自殺は毎年約130件(実態はもっと多い)ですが、「自殺の原因はいじめ」は・・・なんと7年間ゼロ件が続いています。この数字を発表し続け、いじめは減り続けているとの見解を出してきた政府・与党の責任は重大です。

・滝川市長は、地方交付税削減などを理由に、小中学校のセキュリティは365日、24時間校長・教頭先生に責任を負わせ、管理職はクタクタです(セコム等委託管理が常識)

・ある教師は、授業・行事・PTA・部活動の指導など、「隣のクラスでいじめがあっても支援する余裕は無い、学級内のことは担任任せ」と述べています。

こんにちは日本共産党市議団です
清水まさと・酒井たかひろ

日本共産党滝川市議会報告 2006年10月号外発行
日本共産党滝川市委員会 大町1-1-25 23-0231



日本共産党
生活相談所
のご案内



お気軽にお電話を。無料弁護士相談も実施しています。

清水 雅人 空知町1-5-2 23-7924

酒井 隆裕 西町5-6-29 23-5898

日本共産党北空知留萌地区委員会 23-0231



再発防止に必要なのは「教育基本法改正」や国からの管理を強めることではありません 子ども本位の学校づくり、教職員の増員と予算増、地域・家庭と学校の連携づくりこそ

これまでの主な経過

- 昨年9月 9日 江部乙小学校教室で児童が自殺をはかり、意識不明に
- 10日 教育部長が市立病院で遺書見てとの家族の依頼を断る
- 10月12日 遺書全文を教育長らが把握(家族が読み、教頭書き取る)
- 11月23日 教育委員会、市議会、記者会見で遺書について虚偽報告「友達の好き嫌いが内容」「いじめを断定する事実把握できず」
- 今年1月 6日 児童が死去
- 6月21日 遺書コピーを遺族から教育長らが入手。遺族いじめ認定求める
- 10月 1日 「市教委が、遺書の『いじめ訴え』隠す」報道(讀賣新聞)、
- 2日 記者会見で教育長「いじめの事実把握できず」
- 5日 教育委員会で教育長『いじめあった』と、3日間で態度一変
- 14日 教育長辞任。16日教育委員長辞任。部長、室長を懲戒処分
- 16日 市教委新体制発足(教育長職務代行、心の教育推進本部)

※市議会総務文教常任委員会は、5、10、17日に集中審議、23日臨時議会開催



日本共産党は何度も取り上げたが・・・市教委は隠し続けた

- 昨年9月 質問 ①自殺はかった児童にいじめはあったか②その他のいじめ報告は
- 答弁 ①特定できていない。調査中②把握していない
- 意見 ①学校、市教委の調査では不十分、専門家を入れ十分な体制を
- 今年2月 質問 ①いじめの調査結果は②担任から相談やトラブルで報告は
- 答弁 ①事実把握できない②担任は学校にも保護者にも報告しなかった
- 8月 質問 ①遺書に「つらい、苦しい」等の訴えはないか②いじめかどうかの判断は、事実探しでなく、本人の思いを優先しているか。
- 答弁 ①遺書には友達の好き嫌い、寂しい思いが書かれている②本人の思いは大事だが、判断には身体的・心理的攻撃の継続事実が必要。
- 9月 8月と同じ内容を教育長に質問。教育長は「事実」に固執し、「10日続きますよね、それはいじめということになります」などと答弁。

えっ、滝川にはいじめはない?・・・実態どかけ離れた市教委報告

市議会9月定例会の日本共産党の質問への教育長の答弁(今年の4月以後の半年間の実態)

★学校では(小学校7校、中学校4校で)

- ・冷やかし、かからかみ、仲間はずれの疑いで担任が校長に報告・・・34件
- ・うち学校が保護者に報告・・・25件
- ・いじめの可能性、いじめにつながるかもとしれないと校長が判断・・・4件
- ・学校から市教委に緊急性あるものとして報告・・・2件
- ★しかし、市教委がいじめと断定した件数は・・・0件(過去2年間も0件)



なぜ自殺を防げなかったのか・・・サイン見逃した大人が問われている

- ★「修学旅行の部屋割りで計4回も、この子だけが決まらない。仲間はずれは思春期の女兒にとっては死ぬほどつらいもの、これに気がつかない教師は失格」と住民説明会で何人もが発言。しかし、担任は「解決した」と考えたそうです。
- ★修学旅行の見学班は、この子だけが男子グループに入っていました。旅行前にしおりを見た校長や教等先生は「違和感を感じなかった」と述べています。
- ★「キモイと言われた」「仲間はずれにされている」と、相談を受けても、親にも管理職にも報告しませんでした。担任は「解決した」と考えたそうです。
- ★担任以外の12名の教員は、修学旅行に行った4人を含め、いじめの事実や本人の悩みに気づかなかったということです。
- ★気づかなかった遺族を批判するの人もいますが、いじめられて苦しんでいることを親に隠し、家庭で明るく振舞う例が多いのです。いじめた側も含めて、学校や放課後の子どもの人間関係を把握している親が少ないことも問題です。



今後求められるもの・・・実態解明と組織の検証、児童のケア

- ★「自殺の原因はいじめ」と認めたが、いじめの実態は何一つ明らかになっていません。いじめの実態解明が、今後の防止策や心のケアの出発点です。
- ★「教職員は、担任以外何も気づかなかった。」とされていますが、疑問の声が多数出されています。教職員への個別の聞き取り調査は欠かせません
- ★担任教師は修学旅行の部屋割り、席替えなどでトラブルがあり、児童から2度相談を受けていたことを管理職にも、親にも報告していませんでした。これを「問題はない」と前教育長らは述べましたが、学校の体制や調査の検証が必要です。
- ★「1年間にいじめの事実はない」と教え、全国的なマスコミ報道の中で、児童生徒に対する心のケアは、これまで以上にきめ細かさが必要で



住民説明会に「このまま隠し続けるつもりだったのでは」「真相解明はこれから」「いじめに苦しむ子どもがたくさんいるのに対応してくれない教育委員会・学校の抜本改革してほしい」

「繰り返さないため、学校・地域・家庭が連携強化を」など延べ約100人の市民が発言。参加できなかった方も、今後たくさんの企画が組まれます。ともに考えましょう

こんにちは日本共産党市議団です 清水まさと・酒井たかひろ

日本共産党滝川市議会報告 2006年10月号外 連絡先 大町1-1-25 23-0231